技術・家庭科[家庭分野]
浦上千歳
Ⅰ 研究の経緯

１ 昨年度の研究
学習指導要領・改善の基本方針の中で，家庭科については，社会の変化に対応しながらも自立的に生
きる基礎を培うことを重視し，小中の内容が体系化されている。本校でも研究主題「学びがつながる授
業づくり」に基づき，小・中の「学びのつながり」をスムーズにするために，Ⅱ期の小学校家庭科で科
学的な視点を取り入れた学習を足場づくりとして行い，Ⅲ期の生活を科学的にとらえた実践に基づいて
課題をもってとらえなおす力をつけていく学習を仕組んできた。一昨年度の取組みの中で，科学的思考
を取り入れることで生活実践力の高まりがみられることが分かった。そして，Ⅱ期をさらに前期と後期
に分け，家庭科教育５年間における学びのつながりを図式化し整理することができた。また，どの時期
にどの視点の科学的思考を重点的に取り入れるのかについて系統立てることもできた。そして昨年度の
取り組みでは、科学的思考の材料として、文化的・伝統的視点を取り入れた学習が、課題を持ってより
よい生活を創造していこうとする意欲を高め、課題を持って生活をとらえ直す生活実践力をつけること
につながることがわかった。

２ 今年度の研究
本年度は，「衣生活」の領域に焦点化して、小・中学校の学びにつながる授業のあり方を探る。
ただし、本年度は小学校家庭科の専任教諭が不在なため、Ⅲ期を中心に研究を進めた。
昨年度取り組んだ「文化的・伝統的な視点」からのアプローチと生活実践力の高まりについて、さらに
研究を深め 3 年次としてまとめていく。その際，自分から近接環境へ，さらに遠隔環境へと生活空間及
び意識を横軸、過去から現在への時間的空間を縦軸として、衣の基礎的・基本的な知識や技能の習得す
る中で「表現・コミュニケーション力」を育成することを目標としている。

３ 中学校卒業時のめざす生徒像
科学的な見方や考え方ができ，自己の生活の自立ができる生徒
 ○生活を科学的にとらえる能力（知識・技能・思考力・表現力）・態度がある。
 ○家庭生活および家庭の機能についての理解が深まっており，知識が体系化している。
（＝科学的概念が形成されている）
○いろいろな事象に対して，これらを総合的に活用することができ，これからの生活を展望し，課
題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度が身についている。

Ⅱ 本年度の研究計画

１ 授業仮説
Ⅱ期（小学校５年生～中学校１年生）
小学校５年…生活を科学的な視点から見つめ直しできる・わかることをふやし生活に生かす学習
小学校６年～中学校１年…生活を科学的な見方・考え方でとらえ自ら工夫して生活を改善する学習

２ 研究の目的
Ⅲ期（中学校２～３年生）
日常生活に必要な衣食住に関する基礎的・基本的な知識及び技能の習得，家庭の機能についての理解
において，自己の課題から生活を見直し体験的な活動を行うと，「科学知」と「生活知」の「のぼりおり」
をさせる中学校家庭科の授業が，科学的概念に基づく抽象的思考を行う場面で有効にはたらき，「学びの
深化へ」繋がるという授業仮説を検証する。
3 年目となる本年度は、「文化的・伝統的な視点」を取り入
れることで，先人からの知恵から生活知と科学知ののぼりおりや知を繋げるネットワークが進化し、さ
らに日本の誇る「和」の文化を海外に発信できる総合的な力をはぐくむという授業仮説を検証する。 ３ 研究の方法
Ⅲ期（中学校２～３年生）
「日本の伝統色」と染色に関する学習、モン族の「布や刺繍の文化」についての学習を経て、藍染め
で染められ伝統色で描かれたポケットをもつインジゴデニム地の絵本バッグを製作するという一連の検
証授業を実施し、授業前後でのアンケート及び感想を分析することによって、授業仮説を検証する。 ＜計画＞ 対象：広島大学附属東雲中学校 第 2 学年全員（80 人） 内容：伝統色、特に藍染めを中心に歴史的な学習を行う。
 計画：６月・・・中学２年生に色アンケート実施
 ９月～10 月初旬・・・きものの歴史的内容の授業 藍染めと伝統色を使った手提げバックの製作
 11 月中旬・・・事後アンケート実施，分析，考察